

Logistics Assessmentを 請け負います



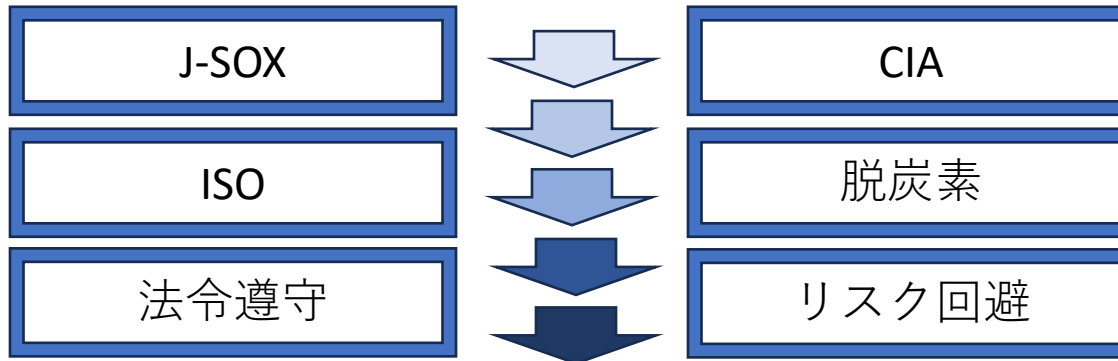
Logistics
Real estate
Cooperative

物流不動産協同組合

Logistics Assessmentの必要性



大手企業はCSRの一環として
内部統制の評価が義務化されます



※Certified Internal Auditor
(公認内部監査人)

取引先中堅企業にも
同様の仕組みを求めます

まず中堅企業には一挙に難題が押しかけてきます（何をどの順番でどうすれば良いのか？）
Logistics Assessmentは大手企業の1/10の期間と費用で簡易診断・評価・治療方針を提言します
サステイナブル・ロジスティックスの推進に後れを取れば、生き残りが難しくなります

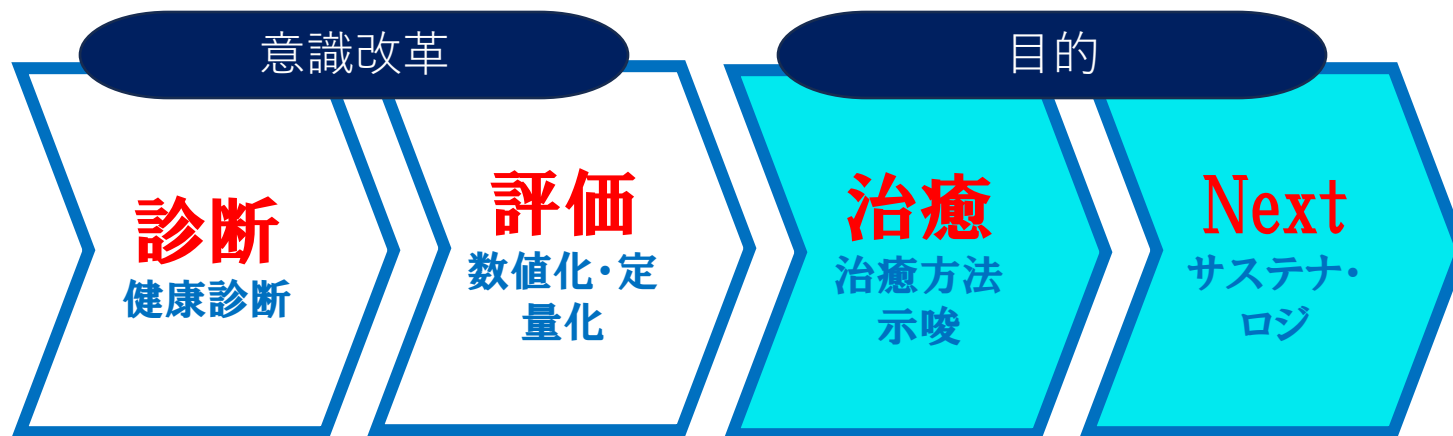
中堅企業はまずは実践、少しずつ、確実に推進する事で生き残れます

日本の99%の中小企業にこそ健康診断は必要



Logistics Assessmentの健康診断 は専門家が行います

ロジスティクスこそ、調達から販売そしてリサイクルと領域は拡大しています
しかしその領域全般の業務は専門家でなければ診断・評価できません
そこで中堅企業向けのLogistics Assessmentを行い、成長の羅針盤にさせていただきたいと考えております
皆さんはここまでは見ているだけですが、見る事でサス・ロジを理解できます

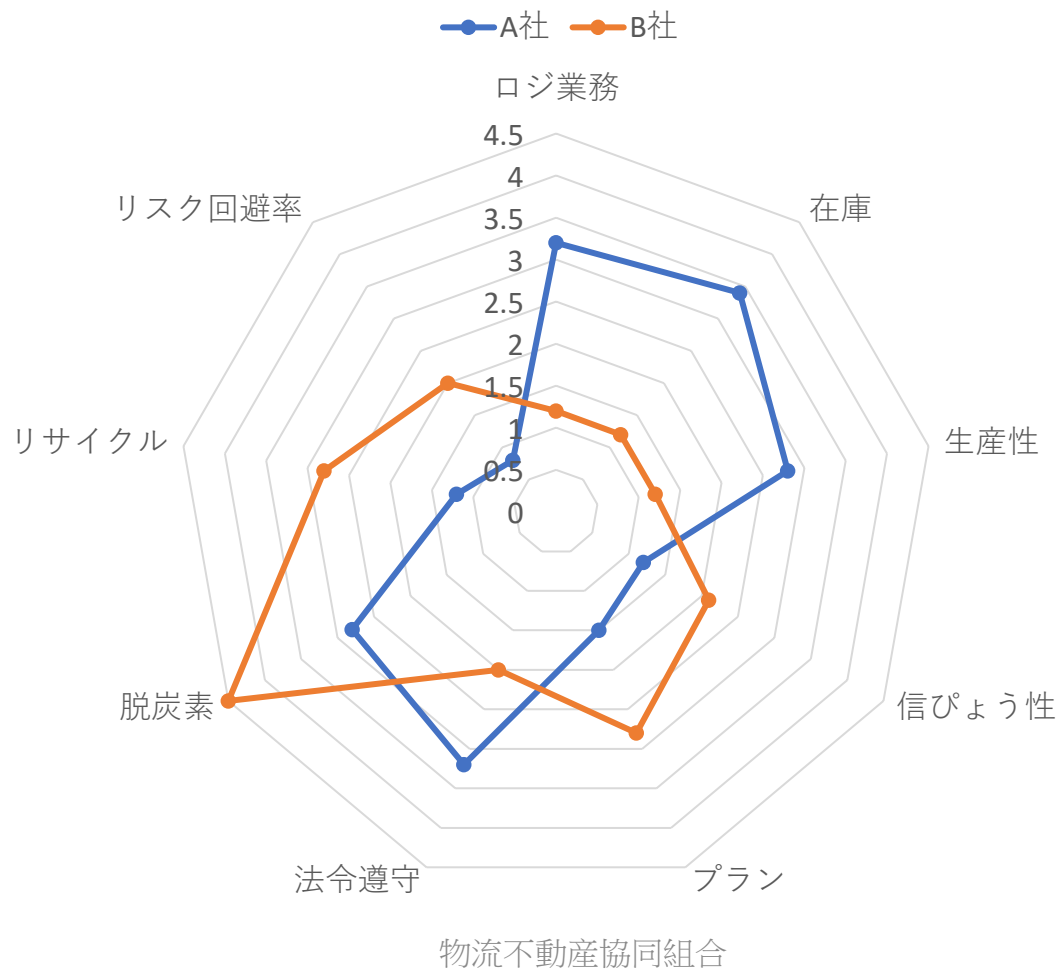


「ただ安く運べば良い」から「サステナ・ロジへの変革」が生き残りの条件

Logistics Assessmentは9つの項目で行います



Logistics Assessment 評価例



	診断項目	診断内容
1	ロジスティクス業務 (鳥観図)	調達(国内・海外)、生産、販売(国内、海外)、リサイクル、売上、物量、コスト、在庫場所、業務ポイントなど
2	在庫指標(製品)	ABCZ別売上と在庫率、在庫誤差率、在庫拠点別在庫保有内容、長期在庫率、返品などの格落ち率、リユース率など
3	ロジスティクス生産性 (1個当たりコスト原単位)	1個当たりのコスト、1個当たりの在庫、1人当たりの処理量(直接、間接)、1坪当たりの処理量など
4	データの信ぴょう性	入荷(仕入れ確定)、出荷(売上確定)、納品(売上確定)、各プロセスの異常値発見方法、
5	中長期ロジスティクスプラン の妥当性	DX化率(AIや自動化技術を活用した在庫管理・配送ルート最適化)、物流の効率化(グリーン物流)積載率の向上、モーダルシフト、共同配送の推進)、人材育成・労働環境改善(荷待ち時間・荷役時間の削減、物流現場の自動化・省人化)グローバルサプライチェーンの最適化(危機対応力や透明性向上が重視)
6	法令遵守・改善率	物流法令(多重構造、積載率)、共同物流推進率、労基・労安法令(就業時間、休息时间)
7	脱炭素改善率	省エネ法・温対法対応で年間1%の二酸化炭素排出量削減目標に対する実績
8	リスク回避率	災害リスク(地震、水害、火災など)、人為災害(人災)大規模火災、爆発事故、危険物漏洩、交通事故、産業事故など、感染症リスク、サイバーテロリスク、社会リスク(紛争や関税)
9	リサイクル率	循環利用率(出口側と入口側)

Logistics Assessmentのサンプル



ロジスティクス業務(鳥観図)				診断日	年	月	日	
診断項目	単位	1 段階	2 段階	3 段階	4 段階	5 段階	備考	
1	鳥観図の有無						調達、生産、販売、回収の区分	
2	鳥観図での売上比率 (対象事業部)						領域別比率、カテゴリ数、金額	
3	鳥観図の物量比率 (対象事業部) 単位						領域別比率、カテゴリ数、物量	
4	鳥観図の在庫量、在庫月数 (物量基準)						領域別比率、カテゴリ数、在庫量、在庫月数	
5	鳥観図の物流コスト (金額、売上比、原単位)						領域別比率、カテゴリ数、金額、比率	
6	鳥観図の在庫拠点 (国内外の拠点数)						領域別比率、拠点数別在庫量、在庫月数	
7	鳥観図の法令違反の可能性 (大中小の区分) 特に仕入れと売上の統制						仕入れと売上確定根拠	
8	鳥観図の二酸化炭素排出量 (大中小の区分)						物量別拠点電気、ガス、輸送手段別比率	
9	鳥観図のリスク (大中小の区分)						拠点別BCPの有無、訓練状況	
	合計							

評価基準はすべて5段階



5段階

- すべてのデータの8割程度は定量評価できる
- その推移も2%以上の改善が半分以上の項目で見られる

4段階

- 半分程度の定量評価が来ている
- その推移も1%以上の改善がみられる

3段階

- 一通りのデータは存在する
- そのデータも過去よりもよくなっている

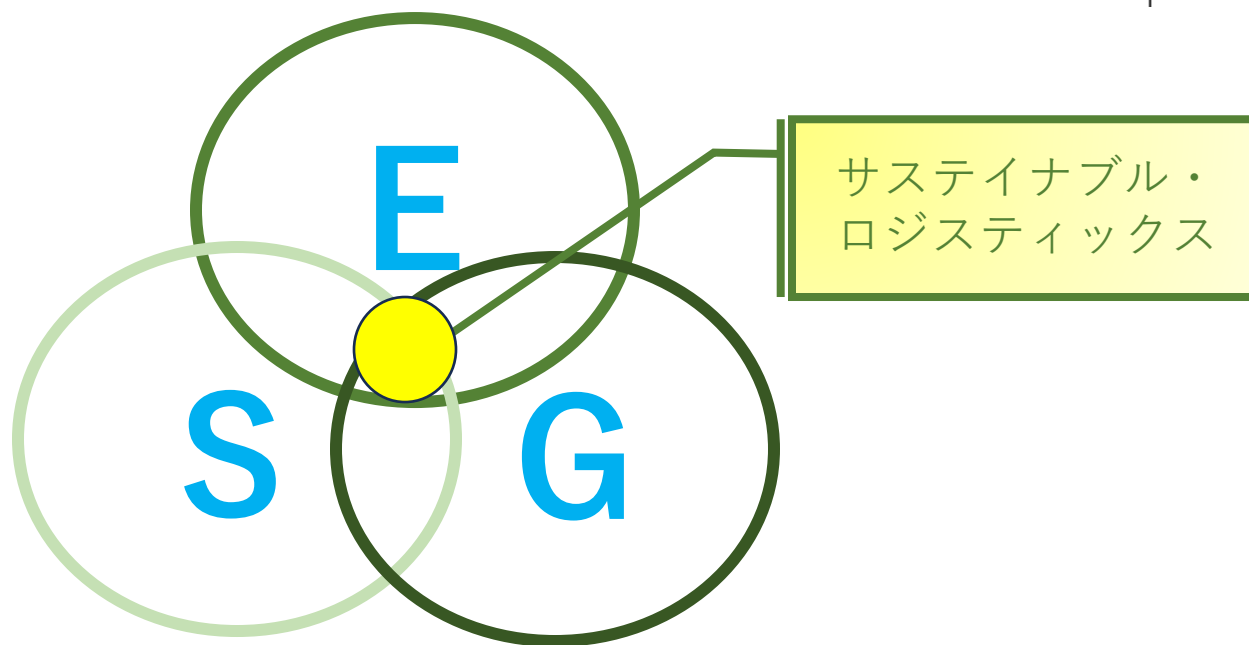
2段階

- 1部データはあるが、継続性あるいは信ぴょう性に疑問
- 昨年との比較で改善が進行中

1段階

- データがない
- 昨年との改善が見られない

なぜサス・ロジを目指さなければならないか？

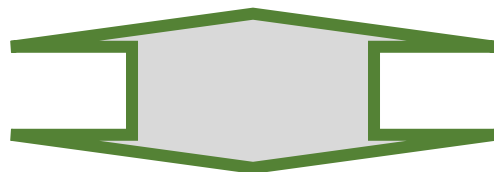


「環境保護 (Environment)」、「社会開発 (Social)」、Governance (ガバナンス・企業統治) を3つの柱として、これら3つの要素をバランスよく調和させ、将来の世代に負荷をかけずに発展を続けることが、持続可能な社会の実現に不可欠と考えています



ただ運べば良かった時は

大量生産・大量消費・大量廃棄の時代は、20世紀以降の技術革新で生活の豊かさを実現した一方、資源枯渇や気候変動（地球温暖化）、深刻な廃棄物問題を引き起こした直線型経済モデル



物流のベースは
モーダルシフトと共同物流

法令遵守・脱炭素・リスク回避
が追加の評価





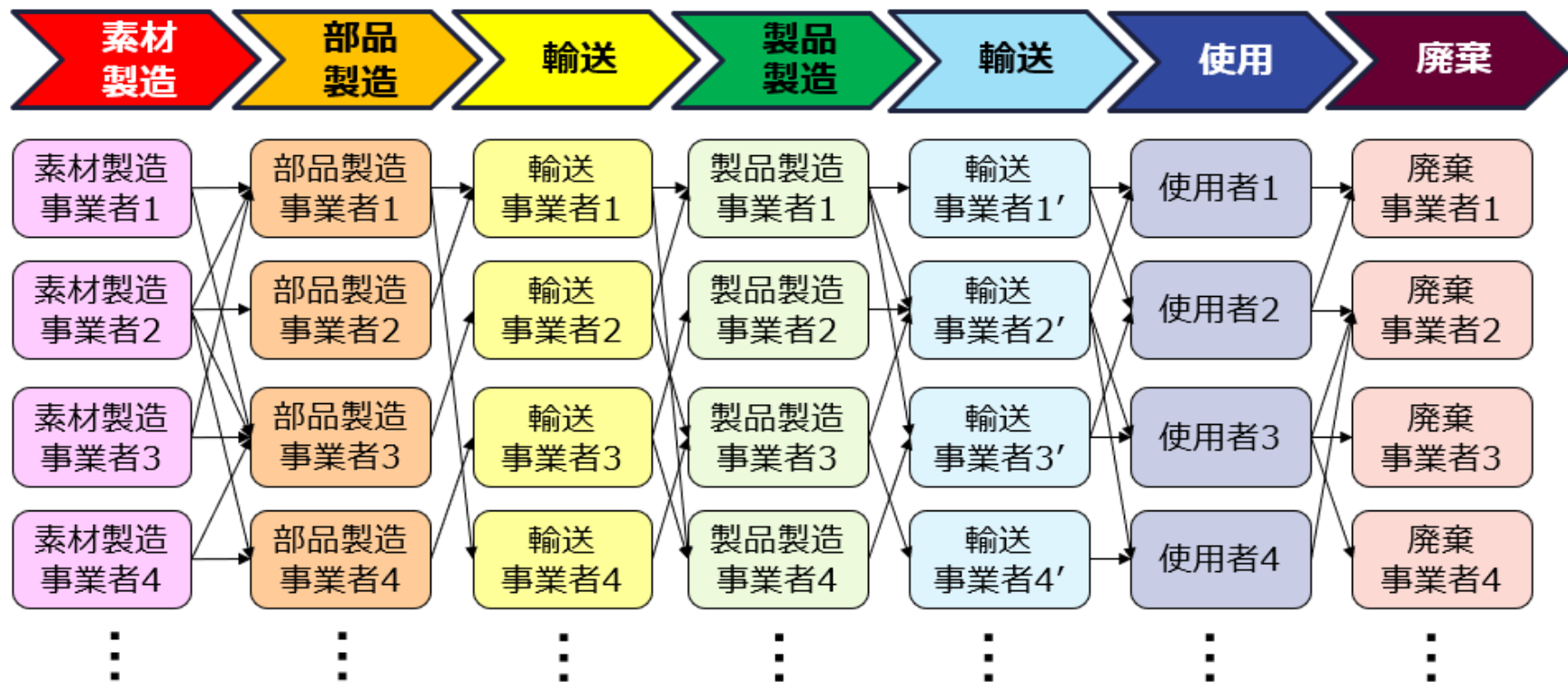
例えば、環境省が提示しているサプライチェーンでは

なぜサプライチェーン排出量を算定するのか？②

サプライチェーン上の削減はみんなの削減 1/2



- サプライチェーンの各段階には多くの企業が存在しており、取引関係で繋がっている
- ここで、誰かが削減を実現するとどうなる？





例えば、環境省が提示しているサプライチェーンでは

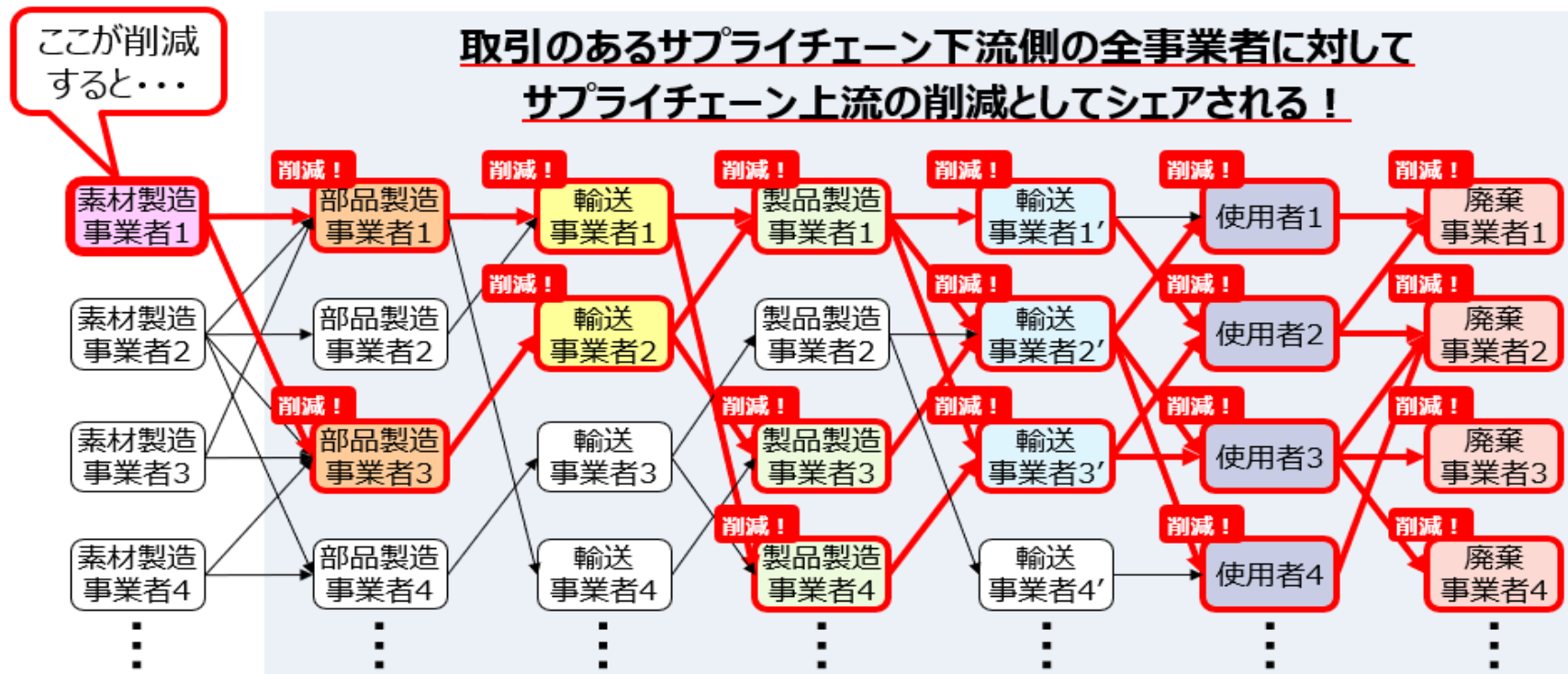
なぜサプライチェーン排出量を算定するのか？②

サプライチェーン上の削減はみんなの削減 2/2

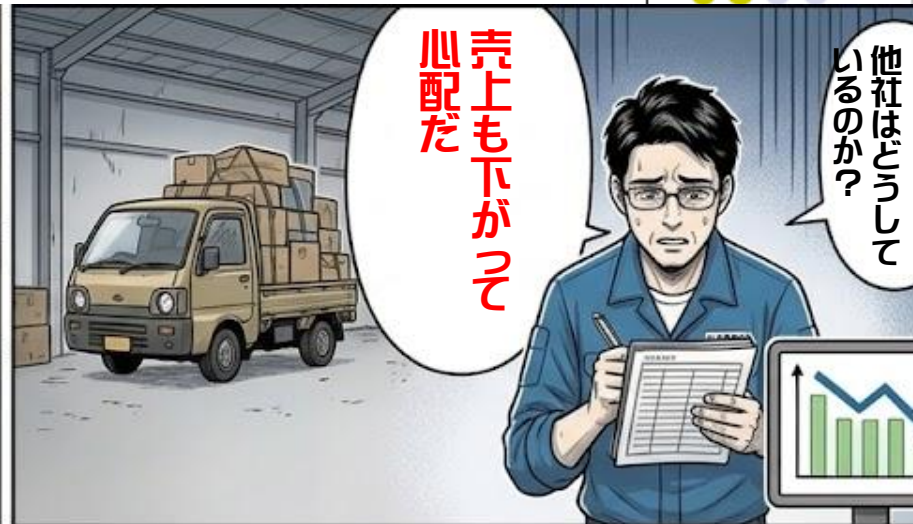


- サプライチェーン上のうち1社が排出量削減すれば、他のサプライチェーン上の各事業者にとって、自社のサプライチェーン排出量が削減されたことになる。

素材製造事業者1が、排出量を削減したときのイメージ例



同様にコンプ、BCPへの安心感が取引条件になります



Logistics Assessmentをする人 細木和茂



細木和茂

1954. 9. 25日 新潟出身

神奈川大学工学部経営工学科 卒業

(株)日本能率協会コンサルティング(通称JMAC)で30年物流
コンサルティングに従事

途中、韓国現地法人代表として赴任(韓国でも物流コンサルティ
ングを30年近く行なった)

退職後は(株)BBF(Business Brain For U)を設立し、中堅企業の
経営指導に従事してきました

ロジスティクス検定講座の講師を10年近く従事し、多数の合格者
を輩出しています

40年物流コンサルとして産業界で支援した企業は200社強

人生の終焉を迎えるにあたり、このノウハウとスキルを使って最後
の仕事としてLogistics Assessmentを使命として命尽きるまで行い
ます



ホームページ



Youtube



ブログ

